

## 巻頭言



日本教職員バドミントン連盟会長  
高橋 英夫

太陽光線が若葉に映えて目に眩しい気持ちの良い季節となりましたが、会員の皆様にはご清祥の事と拝察申し上げます。

永らく私たちの正常な日常生活やバドミントン活動を奪った新型コロナ感染騒動も収束に向かい、やっと日々の活気が戻ってきた感があります。世界の国際大会や日本国内のバドミントン大会もほぼ現状復帰しております。昨年度は北海道札幌市において第62回全日本教職員バドミントン選手権を開催し、会員の多くの皆様のご参加を賜り、成功裡の内に無事終了することができました。厚く御礼申し上げます。併せて、今年の2月中旬には第13回全日本教育系学生バドミントン選手権大会も本大会のホームグラウンドともいえる葛飾奥戸総合スポーツセンターで実施し、東京理科大学の学生諸君による大会運営も円滑になされ感謝に堪えません。

このJEF機関誌も例年通り夏・冬号と計2回発刊致しました。編集校正にご尽力頂きました稲石副会長・石原常任理事に感謝申し上げます。

現在の我が国のバドミントン界は、公益財団法人日本バドミントン協会の抜本的組織改革が進む中、今年度は選手強化費5億円減額という予算処置の報に触れ、ナショナルチーム選手諸君の世界大会での活躍にどのような形で報いていくのか心配致しております。また毎年言わせて頂いておりますが、我が国の多くの審判員や医療スタッフを含め、バドミントンを愛する全ての人々の、真摯で献身的な努力にどのように協会は報いていくのかも、元日本協会OBとして心配事として胸中にあります。今は静観あるのみ。ただ、私達日本教職員バドミントン連盟は会員が心一つにして今後共バドミントン界の更なる発展を期して精進してまいりたいと思います。関係各位に於かれましては本連盟に格段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年度の全日本教職員バドミントン選手権大会の開催地は、熊本県玉名市・山鹿市です。歴史ある美しい温泉街での8月初旬の大会を連盟執行部一同楽しみにしております。会員の皆様方の多くのご参加をお待ち致しております。

最後に面白い情報を一つご紹介します。昨年11月のBWFによる大会運営規程改正の中に、大会開催時の体育館内のネット中央上縁の照度がこれまでずっと1200ルクス以上を基本としていましたが、なんと1000ルクス以上に改訂されました。何十年ぶりかの驚きの改訂でした。また2024年のパリでのオリパラ後（BWFの総会にて決定される）に11点5ゲーム制に改訂されるかもしれないこともニュースの一つになっています。

## 目次

巻頭言

第13回全日本教育系学生バドミントン選手権大会

連盟間の交流会について

表紙の人